
◆ 目次 ◆

- 1 2021 年 9 月・10 月の休館日
- 2 寄稿（令和 2 年度春の叙勲受章者 沖田豊穂）
- 3 領事便り
 - （1）日本へ入国・帰国される方々へ
 - （2）領事窓口の受付時間
 - （3）在留届の内容は最新でしょうか？
 - （4）モンリオール日本語センターからのお知らせ
- 4 広報・文化便り
- 5 政治
- 6 経済

* * * * *

- 1 2021 年 9 月・10 月の休館日
 - 9 月 20 日（月）敬老の日（日本の祝日）
 - 10 月 11 日（月）Thanksgiving（当地の祝日）
 - 土・日曜日

2 寄稿 ～ 令和 2 年度春の叙勲受賞者 沖田豊穂 ～

このほど、在モンリオール日本国総領事館、伊澤総領事より叙勲を授かりました沖田豊穂（とよお）と申します。

叙勲の受章を機会に、総領事館メールマガジンの担当官からマガジンへの寄稿のお誘いを受けまして、有難いことと思い一言で引き受けましたが、さて中身はどのようなになりますか・・・。

1967 年に、カナダ建国 100 周年を記念して、モンリオール万国博覧会が開催されました。

その年からカナダは、新しい移民受け入れ政策（ポイント・システム）を実施し、世界中どの国からでもカナダの発展に寄与する移住者を受け入れることになりました。日本からもいろいろな技術移住者が飛行機で来はじめました。

私はその 3 年後の 1970 年に、病院などで働く臨床検査技師としてトロントに移住しました。23 才になったばかりでした。

その後トロントで9年、モントリオールでは日本総領事館の現地職員として5年半を過ごしました。

1985年に日本の外務省に中途入省し、2011年に定年退職するまで大半を日本の外交官として勤務しました。

勤務の前半は領事事務、広報文化、経済協力を担当し、後半はカナダ移住の経験を活かそうと領事事務に専念しました。

さて、この寄稿文では、フランス語と英語の2言語文化が交わるモントリオールに我々居住する者としまして、世界の国々や地域によってそれぞれ異なる“言語文化（圏）の違い”というものの意味するところについて、私の経験を通して日本語でメスを入れて考えてみて、ちょっと楽しめないかなあ～と思っています。

本題に入ります前に、あらかじめことわらせて頂きたいことがあります。

まず以下は、私の体験からくる個人的な考えですので、悪しからずご容赦願います。

それは、世界のあまたの異なる言語文化（圏）に良し悪しはつけられないのではないかと考えていることです。

なぜなら、人間はみな赤子の時から自分が生まれた国の文化にドップリ浸かって育てられているからです。

【最初に英語文化とぶつかって】

1970年にカナダのトロントで初めてぶつかった、英語文化との交わりから始めさせていたきたいと思います。

昔も今も、日本語文化と英語文化の二つの文化は、なんとオポジットと言いますか、真反対の性格と思える点が多い二つのカルチャーだな～とってしまう誘惑にかられます。

何といっても、仕事の時でも普段の生活でも、英語で会話をしている時、私の話す言葉の意味が良い方にも悪い方にもとれる（解釈できる）ときは、100パーセント相手が悪い方にとることに気づいたことです。

当初は本当にびっくりでした。例えば、こちらは心からそう言っているのに、言い方が皮肉や悪意にもとれるときは、必ず皮肉とか悪意として悪い意味にとられるのです。

ここは何と腹がどす黒い世界なんだろう、と思ったものでした。

ところがです。

【善も深けりゃ悪も深い(日本語文化の尺度では)】

日本文化で育ちそれを拠り所にして生きてきていた若者にとりましては、このような厳しい社会を見て「こんな社会が世界にあったことを日本にいる時は誰も教えてくれなかった。日本人に騙されていた!。」とさえ思って憤りを感じたほどでした。

しかしながら、実はこのどす黒さをみて憤っていた同じ時期に、幸福の女神や、男神

にも会っていました！。

「ツアーヨオ、私アイリッシュよ。」と聞きもしないのに話しかけてくれ、私がセント・アンナ・メディカル・ラボラトリーでおぼつかない英語で仕事を始めた時から4年半後に退職して学生に戻るまで、ずっと協力してくれたのはカナダの地方出身のベティーという女性でした。

また、仕事の態度も、息抜きのコーヒー・ブレイクでの会話のときでも、非の打ちどころのない英国人の寡黙な若いジェントルマンのボブが、「ツアーヨオ、北海のほうで豊富な埋蔵量の油田が見つかったようだよ。」とほんのちょっとだけ嬉しそうな表情で私に話しかけてくれた場面はずっと私の脳裏に残っています。

そこで私の関心は、この二人が日本から来た私が圧倒されていたそのどす黒い社会を一体認識した、承知したうえでそのように生きているのか、それともそこが見えないで全く切り離された彼ら自身の世界に生きているのか、でした。

もちろん、二人とも前者であることは明白でした。

よって、たま～に気が早くなることがある私が直感したのが、英語文化は、日本語文化の尺度で言えば「善も深けりや悪も深い」文化だということですが、深読みしなければいけない文化だということ間違いなさそうです。

後になって時間とともに、このどす黒さは、英語文化の尺度では必然的に彼らが自己防衛するための常識的な振舞いじゃないかということがわかってきましたが。

【英語文化の力の源泉】

ある日、カナダの自動車免許に取り直してトロント国際空港周辺で試運転していたとき、あやまって谷底の川まで迷い込みトーイング・カー（牽引車）に車を引き揚げてもらいました。

この時トーイング・カーの運転手に法外の料金を吹っかけられたことから、私が警察に依頼して一件落着いたことがあります。

この時の体験から、空港警察の対処の迅速さ、神経の注意深さと集中力、不正行為に対する問題解決の執念、などに深く印象づけられました。

私の、この英語文化の力強さの源泉はどこから来るかという興味、憧憬は、こんな体験からもとても強く湧いてきていました。

遠い将来にも、近い未来にも目標を定め、本気になった時の、時には命がけにもなるような精神的ガッツ、胆力、優れた眼力（目のつけどころ）。

スポーツ分野も同じで、先だっの2020年東京オリンピックの英語文化圏の国々の成績を見ても、そのことがうかがえました。

ところが、早々と大学の数学の講義室で、私はこの力の源泉を見つけるために足しになることを見つけた気がしました。

何が起きたかといえば、英国から来ていると思われる力強さや威厳さえあるような自信のある話し方をする学生が、講師に対してまるで数学という学問の意味さえ解っていないのではないかと思われるようなお門違いの質問をしたのです。

それを見てのひらめきです。

まあ、私の直感による類推たるもの八卦見さんと同じで、当たるも八卦当たらぬも八卦で、保証の限りではありませんが。

英語文化（圏）の力の源泉を見つけるために足しになることとは、英語文化（圏）が世界の他の文化（圏）に比して知性面で圧倒的に優れているからではなくて、知性ではない要素、敢えて言葉を見つけるなら英語文化を体現する人々固有の本能的な特徴にあるのだろう、ということです。

【やっぱり日本語文化と英語文化はオポジット・イメージ！？でも、きっと時間が解決】

「人の良いところを見て暮らさない。」。日本の伝統文化が色濃ゆく残っていた地方で育った、団塊の世代の私が親からよく聞いていた言葉です。

「他人に騙されないよう、用心深くとことん人は疑って生きるものですよ。自分の思っていることを、絶対人に感づかれないようにしなさいよ。自分の思っていることをすぐ外に出すのはナイーブな子供のすることです。」ちょっと極端ですが、もし私が英語文化圏で生まれていたら、言葉でか阿吽の呼吸で言外にか、両親からひょっとしてこう教わったかもしれないなあ～と考えることがあります。

そういえば、第2次大戦の終戦直後にマッカーサー元帥という人が「日本人の精神年齢は12才」と言った、と聞いたことがあります、彼はきっと正直な人だったのではないのでしょうか。

英語文化圏の人が、日本語文化をまだわからない時点で外から観察すれば、前のおりで、そういう印象をもつことは容易に想像でき、理解できる気がします。

昔の話のついでです。日本の我々団塊世代が大学紛争に熱中していました半世紀以上前、ノンポリだった私は当時の首相がよくテレビで言っていたことをなぜか思い出します。

「その点については、後世の歴史家に委ねたいと思います。」

「日本人は他の文化を理解、吸収する咀嚼力（そしゃくりよく）があるので、西洋文化など、他の文化と十分共存していけると思っています。」

日本語と英語の文化の違いを始め、世界中の異なる言語文化同士の違いは、例えて言えば、ちょうど異文化を背負って夫婦になった二人の個人のあいだの関係に似て、そしてまた現在のスマホやAI技術などの出現の結果にみられる様に、時間というものが相互理解を増進させていくことによって理解され、解決に近づく日がやってくることでしょう！。

一つ、ちょっと手前味噌の話で恐縮です。私は外交官になってからは仏語圏などに赴任して勤務を続けていましたが英語文化との付き合いはどこでもずっと続けていました。

最初の赴任地アルジェリアで領事を担当していた時、一番協力してくれたのは米国大使館の政治と領事双方を担当していた若い外交官で、今でも感謝しています。

ブルガリアの首都ソフィアで欧米、アジアなどの領事担当官30人ぐらいが定期的に集まって意見交換し、昼食を一緒にするという領事会合で、米国大使館付き総領事が幹事、私がまとめ役をして会合をうまく実施したことがあります。その総領事から私にまとめ役になってくれと直接依頼されたのですが、普段からの相互理解、信用があったからの話です。

【フランス語文化との出会い】

学生時代に岡山市の古本屋で、鹿島守之助さんという当時の鹿島建設会長著の「私の履歴書」（日本経済新聞社）を立ち読みしていました。

その中で、戦前著者が外交官としてドイツに赴任していた時、フランス人の哲学者の著書を読んで感銘を受けたとありました。

彼の哲学は自然科学を取り入れたものでユニークだと書いてあり、衛生検査技師学校で医学技術系の自然科学を学んでいた私がその翻訳書をつまみ読みして俄然興味を持ったことが、実はフランス語文化に出会ったきっかけです。フランス語をわかりたい、と強く望んだ理由です。

早速、仕事が終わってから京都関西日仏会館の夕方のフランス語コースなどで学びはじめ、中級予備講座まで終えました。

それからちょうど10年後に、幸運にもモンリオールに来てフランス語に再会したときは、とても嬉しかったことを思い出します。

【フランス語と英語の両方で見る世界】

フランス語文化は、フランスが英国との二国間で長く戦争や協調を繰り返した歴史から、世界の幾多の言語文化のうちで英語文化（圏）の考え方、性格を一番よく心得ている文化でしょう。

一旦フランス語が解りはじめると、あらゆる分野で英語文化に対するフランス語文化独自のものの見方がわかるではないですか、ポジティブな面もネガティブな面も、これは驚きでした。

私自身の経験ですと、英語文化圏のトロントで暮らし大学で学んで、何となく世界というものがわかったように思っていました。

が、1979年にケベック州のここモンリオールに来て、暮らしの中でフランス語の情報に触れてみると、今まで全く見えていなかった世界の地平線がまるでワッと現れてきた印象を受けたと言っても過言ではありません。

英語文化圏の目で世界を見ますと、当然ながらどうしても英語文化圏の目のみで世界を見るきらいがあるんだなあ～と考えたり、英語文化圏の目で他の言語文化圏をみる視点は概して厳しい場合が多いなあ～と、日本語文化を土台にもつ私は考えたりしたものです。

ここでちょっと蛇足して、以下は近現代の歴史の中で複数の言語文化を理解していた、している世界のリーダー達のリストです。

私の知る限りでも、ナポレオン仏皇帝（セントヘレナ島で英語学習）、チャーチル英首相（ある程度の仏語）、ドゴール仏大統領（独、英語）、ジスカールデスタン仏大統領（英語）、シュミット西独首相（英語）、ブレア英首相（仏語）、周及びトウ（注：登るにおおざと）中国首脳（仏語）、李（承晩）韓国大統領（英語）、吉田日本首相（英語、少し中国語？）、最近ではマクロン仏大統領（英語）、ジョンソン英首相（仏語）、プーチンロシア大統領（独、英語）、フォン・デル・ライアンEU委員長（ドイツ人）（仏、英語）、細川、鳩山、安倍各日本首相（英語：それぞれある程度）、歴代のカナダ首相（英、仏語。除：ディーフェンベーカー首相以外の歴代カナダ首相（英、仏語）など。

これら国々のリーダー達は、世界の現実をより深く把握するため複数言語を取得して異なる言語文化圏の性格、特徴をより深く理解する必要があると考えたからでしょう。

【日本人の、世界の多くの言語文化圏への適応】

1960年代に駐日米国大使だったライシャワーさんが、80年代に毎日新聞のインタビューで日本人への提言を述べていました。大使の夫人は日本人でした。

「将来、日本の指導者たちが外国語で諸外国と意思疎通をして互いに理解し合えるようになり、間違っても（第2次大戦でそうだったように（注：著者））世界で孤立、独走して災いを起こさないよう望む。」

私は、外務省に勤務中に領事事務分野の中で海外での邦人援護の仕事を長い間フランスのパリなどでしました経験から、日本人が海外で様々な問題に直面したり被害を受けたりする大きな理由が、日本国内で海外の日本とは異なる言語文化というものがどういうものなのかということが十分紹介されていないからだということを痛感してきました。

海外での様々な危険な話を聞かされていなかった日本の若者たちが災難に遭った現場で、いつも邦人援護のために被害者に寄り添って、それを見ていたからです。

結局のところ、前に述べましたように数多の異文化間の相互理解が時間と共に進むまでは、日本人自らが災いを警戒する強い意志を持ち、そのための方策を見つける努力をし、普段から注意していくことにつきましょう。

【日本語文化とラテン語文化の交わりの将来は？】

ブラジルのサンパウロに約2年半、日系社会担当の領事として勤務する幸運に恵まれました。

サンパウロ州に大半が集まる日系社会は、日本から移民された方々がブラジルの大地と、ポルトガル語文化に心血を注がれて存在し、近い将来人口200万人に迫るとも言われています。

特に印象に残っている点は次の2点です。

一つは、各地での入植記念祭やいろいろな行事の機会に参加しさせて頂いた時に肌で

感じた感覚です。日本で私が経験していた1950年～60年代の地方の雰囲気、半世紀たってもそっくりそのままタイムスリップしたようにありました。不思議な感覚でした。日本語文化がそのまま保持されていた、その努力をされていたということでしょう。

二つ目は、サンパウロ市の北方100kmほどにある、歴史のある日本人のモデル農場、東山農場を訪問した時のことです。

日本からブラジルを訪問された知名人の方々が記された、厚い記帳簿を渡された時にそれを見て思いました。

歴代首相や経済界の指導者、小説家、スポーツ選手、歌手、芸術家など多くの日本を代表する方々が、このブラジルの日系社会を訪れていることを知り、強い印象をもちました。

ブラジル、日系社会が、如何に日本人に夢や希望を持たせてきているか、と言うことです。

ラテン語文化圏のブラジルと日本は、110年以上の交わりを続けてきていますが、今後も時間と共に相互理解を続けきっと日本人の将来の希望を叶える存在になることでしょう。

【終わりに】

この寄稿文は、日本からカナダに来て留学やワーキングホリディー制度を活かして頑張っている若い方々に読んでいただき、先輩の一人の経験を参考にして頂ければ有難いと思って、また、カナダ等海外でのご経験豊かな日本人、元日本人の方々には私の自己紹介をさせて頂き次回会います時によもやま話が弾むようにと思って書かせて頂きました。

カナダ人、ケベック人の地元の方々には、日本人、日本語文化を今一つよく理解していただくヒントになることを願って書かせて頂きました。

そして、私がカナダに来ましてから日本人、外国からの移住者の方々、カナダの方々にそれぞれ人生の節々で大変お世話になったことに感謝していることを付け加えさせて頂きたいと思います。

モントリオールはもう第二の故郷ですが、これからはますます興味深く、仏、英両語と日本語で、眺めの良いここから世界の動きを日々見て楽しみたいと思っています。

コロナ禍もまだ終息していません、どうぞ皆さま健康にご留意ください。

沖田豊穂

3 領事便り

(1) 日本へ入国・帰国される方々へ

新型コロナウイルス感染症の水際対策により、日本への入国・帰国前から事前の準備が必要です。詳しくは当館 HP をご覧ください。

【当館 HP】

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/jp/consular/coronavirus_jp.html

(2) 領事窓口の受付時間

当地における新型コロナウイルス感染予防を徹底しつつも、在留邦人の皆さまのニーズに適切にお応えしていくため、昨年 4 月 1 日より、以下のとおり領事窓口時間を短縮していますので、改めてお知らせいたします。

●領事窓口の受付時間

10:00～12:30、13:30～15:00

※9:00～10:00 及び 15:00～17:00 につきましても、電話による照会（緊急の場合）、メールによる照会に対応しております。

エレベーターで 33 階のボタンを押すと、総領事館のあるフロアへお越しになれます。

(3) 在留届の内容は最新でしょうか？

海外において災害等の緊急事態が発生した際に、在留邦人の皆様の安否確認や必要な情報を提供する等のための連絡が迅速に行えるよう、在留届の記載内容を確認しております。

外国に 3 か月以上滞在する日本人は、お住まいの地域を管轄する在外公館に在留届を提出することが義務づけられています。在外公館は、在留届をもとに、日本人の皆様が不慮の事故や事件、災害に遭遇した際の安否確認、日本国内連絡先への緊急連絡等を行っています。そのためには、在留届の記載内容が常に最新の状態であることが重要です。

在留届を提出されている在留邦人の皆様のうち、在留届を書面で当館に提出された方におかれては、届出内容に変更が生じた場合は、速やかに当館にご連絡くださるようお願いいたします。

なお、インターネット上で提出された方におかれては、ご自身でインターネットにて手続きをお願いいたします。

(4) モントリオール日本語センターからのお知らせ

●カナダ全土でのオンラインスピーチコンテスト参加者募集のお知らせ

- ・日本語学習のモチベーションを上げたい。
- ・日本語で話す自信をつけたい。
- ・アルバイトをしたいけど CV（履歴書）に書くことがない。

そんなお子様のために【カナダ・こどもスピーチコンテスト】に応募してみませんか？

詳細はこちらから → <https://tinyurl.com/256w5b2z>

登録は無料です。お子様のお名前に応募して下さい。

多数のご応募を心よりお待ちしております！

4 広報・文化便り

当館では、日本関連行事に関する情報を随時募集しております。皆様ご自身が実施される日本関連行事のほか、知り合いの方についての情報を（culture@mt.mofa.go.jp）までお知らせください。毎月末までに原稿をいただければ翌月のメールマガジンに掲載することができます。ホームページへの掲載は随時行います。

（1）当館ツイッターアカウント

当館ツイッターアカウントを開設しています。日本や当館の活動に関する情報を随時発信しています。

<https://twitter.com/JaponMontreal>

（2）カナダ巡回日本映画祭

国際交流基金トロントとの共催で、カナダ巡回日本映画祭を開催します。入場無料、先着順で御入場いただきます。

*新型コロナウイルス感染症の防止策・規制等につきましては、ケベック州政府及び会場となる Cinematheque quebecoise の関連ウェブサイトよりご確認ください。

【モントリオール】

全て英語字幕つき上映です。

場所：Cinematheque quebecoise

335 De Maisonneuve Blvd East, Montreal, QC

（ア）「They Say Nothing Stays The Same （ある船頭の話）」（2019／137 分）

脚本・監督：オダギリ・ジョー 出演：柄本明、川島鈴遥、村上虹郎ほか

日時：10 月 22 日（金）18 時

(イ)「Sea of Revival (風待ち)」(2019/124 分)

監督：白石和彌 出演：香取慎吾、恒松祐里、西田尚美ほか

日時：10 月 23 日 (土) 13 時

(ウ)「Another World (半世界)」(2019/120 分)

監督：阪本順治 出演：稲垣吾郎、長谷川博己、池脇千鶴ほか

日時：10 月 23 日 (土) 15 時 45 分

(3) 日本関連行事等のお知らせ

* 以下の日本関連行事は、必ずしも当館が共催、後援、保証している行事ではありません。また、同行事にて表明される意見等は日本国政府の公式見解とは異なる内容を含み得ます。行事詳細については、各主催団体へ直接お問い合わせください。

* 外部のサイトへのリンクは、あくまでも皆様へのご参考情報です。外部のサイトに掲載されている内容や信頼性に関しましては、当館は一切責任を負いませんのでご了承ください。

●ラヴァル大学図書館エスパス・ジャポン：オンライン—日仏語ランゲージエクステンジ

ケベックと日本をインターネットソフトウェア Discord を使って繋ぎ、日本語・仏語それぞれの言語の学習を楽しみながら深めます。中級から上級レベルの方が対象です。

1 月 18 日より隔週月曜 19 時～21 時

参加費：無料

問合わせ・申込先：佐藤祥子氏 sachiko.sato@crchudequebec.ulaval.ca

●第 3 回日本—ケベック友好展(ケベック市)

日欧宮殿芸術協会主催の第 3 回日本—ケベック友好展が行われます。日本の伝統芸術である書道、水墨画、日本画や文学作品(俳句、短歌、散文など)、コンテンポラリーアート、油彩、水彩のほか、ケベックのアーティスト参加作品も合わせて総数 190 点ほど展示されます。

日時：9 月 23 日 (木)、24 日 (金) 10 時～20 時

9 月 25 日 (土) 10 時～17 時 及び 9 月 26 日 (日) 10 時～15 時

場所：Domaine Cataract

2141, chemin Saint-Louis, Quebec

会場電話：418-528-7433

以下の時間帯でデモンストレーションも行われます。

9 月 25 日 (土) 14 時：コンテンポラリーアート；Jean-Yves Chretien 氏

9 月 26 日 (日) 14 時：水墨画、書道：今井則子氏

問い合わせ：今井則子氏（共同企画責任者）： norikopuffin@hotmail.com
電話：(418)-652-7683

●国際交流基金トロント日本文化センター主催（オンライン）イベント
日本語教師向けにワークショップや情報交換会が随時開催されています。
<https://jftor.org/language/teachers/>

その他、様々なオンライン・イベントが随時開催されています。詳細はこちらからご確認ください。
<https://jftor.org/>

5 政治

(1) ケベック(QC)州

- ・8月5日、連邦・州両政府は、州の保育制度拡充のため、連邦政府が今後5年間で最大60億加ドルをQC州に交付すると発表。
- ・8月15日、連邦下院総選挙戦開始。16日、ブランシェ(Yves-Francois Blanchet)ブロック・ケベコワ党首は、議席を現在の32から40に伸ばすことを目指すと発言。
- ・8月16日、ルゴー州首相は、タリバン支配を逃れるアフガニスタン難民を一定数受け入れる用意があると発言。
- ・8月17日、ケベックシティ地域の連邦保守党候補者団は、連邦選挙で保守党が勝利した暁には、ケベック市とレヴィを結ぶ第3の連絡道となる川底トンネルプロジェクトに数十億ドルの連邦支出を行うと発表。
- ・8月17日、ブレ(Marguerite Blais)州高齢者・介護者担当大臣は、脚の痛みを理由に1ヶ月間の休養を発表。
- ・8月19日、州政府は、性暴力や配偶者による暴力を扱う専門裁判所の創設を目指し、パイロットプロジェクト実施を可能にするための法案を今秋提出すると発表。
- ・8月24日、プラント(Valerie Plante)モントリオール市長は、次期連邦政権が銃を禁止し、銃による暴力事件の増加に対抗するために行動するよう呼びかけ。
- ・8月30日、モントリオール市は、550万加ドルを支出して銃による事件担当警察官を42人増員。
- ・8月31日、ルゴー州首相は、6月に内閣を辞職していたフィッツギボン氏が9月1日より経済・イノベーション大臣として復帰すると発表。

(新型コロナウイルス関連)

- ・8月10日、州政府は、ワクチンパスポートを9月1日より導入すると発表。バー、レストラン、ジム、フェスティバル等で適用されるが小売店では不要となる。24日、州政府は、ワクチンパスポートの詳細を発表。スマートフォンを利用する顧客は「VaxiCode」アプリケーションにワクチン接種後に受け取るQRコードをひも付け、ビジネス側は「VaxiCodeVerif」アプリケーションで顧客のQRコードを読み取るしくみ。

- ・ 8 月 14 日、モントリオールで 15000 人がワクチンパスポート導入反対集会に参加。
- ・ 8 月 18 日、州政府は、患者と接触する全ての医療従事者に対するワクチン接種義務付けを決定。26 日、公的機関の医療従事者のうち少なくとも 3 万人がワクチン接種を受けていないとみられる中、デュベ州保健大臣は同措置による医療サービス一部停止の可能性を認める。アルダ州保健局長は、教員に対するワクチン接種義務付けには難色。
- ・ 8 月 18 日、アルダ州保健局長は、12 歳未満人口がワクチン接種対象になっていないため、それを補う必要で州の接種率は 90%以上、理想をいえば 95%が望ましい旨発言。
- ・ 8 月 20 日、9 月 7 日より段階的に開始予定であった州政府職員 6 万人のオフィス復帰が延期となる。新たな日程は未定。
- ・ 8 月 23 日、モントリオール市の非常事態宣言が 17 ヶ月で終了。同宣言により保健当局は、市の敷地借り上げ、炊き出し、緊急シェルター開設等のコロナ対策支援を行うことが可能であった。
- ・ 8 月 24 日、州内のワクチン 1 回接種率が 75%を突破。
- ・ 8 月 25 日、最近の感染増加に鑑み州保健局は、民間企業に対し従業員のオフィス復帰延期を勧告。勧告は 10 月初めに見直される予定。
- ・ 8 月 26 日、第 1 波で入居者数十人が死亡した長期介護施設 CHSLD Herron の事案について、州刑事罰検察局長（DPCP）は告発しないと発表。
- ・ 8 月 27 日、秋の新学期を迎える CEGEP や大学は、対応が困難であるとして学生や教職員へのワクチン接種義務付けに反対。
- ・ 8 月 30 日、州予防接種委員会（CIQ）は、免疫抑制状態にある人や透析患者に対する 3 回目のワクチン投与を推奨。
- ・ 8 月 30 日、モントリオール市は、若者のワクチン接種率を上げるため 12 歳～25 歳の人を対象に、ソーシャルメディアでハッシュタグ「#GamerVaccine_e」を使うと抽選で総額 25000 加ドルの奨学金が当たるチャンスがあるキャンペーンを開始。また 9 月 11 日～12 日、パレ・デ・コングレではゲームセッションの生中継、ゲーム業界関係者やコスプレイヤーからのプレゼントを用意。

(2) ニューファンドランド・ラブラドール (NL) 州

- ・ 8 月 30 日、フューリー州首相は、モントリオールでルゴー QC 州首相と初の面会、水力発電について意見交換。

(新型コロナウイルス関連)

- ・ 8 月 10 日、一部の場所を除き公共の場におけるマスク着用義務付けが解除される。州保健局は、物理的な距離をとることが難しい場合にはマスク着用を引き続き推奨。
- ・ 8 月 21 日、メモリアル大学は、学生・教職員にワクチン接種と非医療用マスク着用義務付けを発表。

(3) プリンスエドワードアイランド (PEI) 州

・8月11日、連邦政府は、同州の処方箋薬費用負担支援のため3500万加ドルの支出を発表。国民薬保険（ファーマケア）は、連邦自由党が2019年総選挙で掲げていた公約の1つ。

・8月24～25日、伊澤総領事がPEI州を訪問。ペリー副総督、キング首相、アブデルアジズPEI大学学長他と面会。24日には、グリーンゲールズ・ヘリテージプレイスに対する外務大臣表彰伝達式を実施。

（新型コロナウイルス関連）

・8月24日、PEI大学は、10月18日までに全ての教職員と学生にワクチン完全接種を義務付けると発表。

（4）ノバスコシア（NS）州

・8月17日、州議会総選挙実施の結果、ヒューストン（Tim Houston）党首率いる進歩保守党（PC）が多数派政権を獲得。自由党は3期連続政権ならず、コロナ禍で再選されなかったカナダ初の与党政権となった。獲得議席数は以下の通り（カッコ内は改選前比。全55議席。改選前の総議席数は51）。

PC31(+14), 自由党17(-7), NDP6(+1), 無所属1(-2)

・8月24日、ヒューストン次期州首相は、州プライバシーコミッショナー（情報公開・個人情報保護担当官）により多くの権限を与えることを約束。同州では現在この職は政府から独立しておらず、政府に対して勧告することはできてもそれを命令する権限はない。

・8月31日、ヒューストン新内閣発足。公約に掲げていた医療制度改革にとりかかるため、新政権は早速、州医療当局（Nova Scotia Health Authority）のCEO以下役員全員を解任。

（新型コロナウイルス関連）

・8月14日、ハリファックスでワクチンパスポート導入に反対する集会に約100人が参加。州総選挙戦中のランキン州首相（当時）は、自由党再選のあかつきには同制度を導入すると発言していた。

・8月25日、NB州における感染増加に鑑み、同州からの入州者に対し大西洋州外からの入州と同じ条件（ワクチン接種状況、検査）にもとづく州境規制が適用される。

・8月25日にダルハウジー大学、27日にセントメアリーズ大学は、教職員と学生にワクチン接種を義務付けると発表。

（5）ニューブランズウィック（NB）州

（新型コロナウイルス関連）

・8月18日、ヒッグス州首相は、州公務員にワクチン接種を義務付ける計画が進行中であり、またワクチン接種記録にオンラインでアクセスできるアプリを開発中であると発言。

・8月28日、ヒッグス州首相は、ワクチンパスポート導入と、公共の場におけるマスク着

用義務付け再開について 3 週間以内に決定すると発言。

【各州世論調査結果（未確定分は除く）】

(1) 連邦政党支持率

- ・ QC 州（レジェ (Leger Marketing) 調べ（以下同じ）、8 月 11～12 日）：自由党 41%、ブロック・ケベコワ (BQ) 29%、保守党 15%、新民主党 (NDP) 8%、緑の党 5%、その他 1%
- ・ QC 州（8 月 13～15 日）自由党 37%、BQ 30%、保守党 15%、NDP 12%、緑の党 4%、その他 3%
- ・ QC 州（8 月 27～30 日）自由党 33%、BQ 29%、保守党 20%、NDP 13%、緑の党 2%、その他 3%
- ・ NL 州（ナラティブ・リサーチ (Narrative Research) 調べ（以下同じ）、8 月 15～29 日）：自由党 52%、保守党 25%、NDP 22%、人民党 (PPC) 1%、緑の党 0%
- ・ PEI 州（8 月 15～25 日）：自由党 39%、保守党 35%、NDP 13%、緑の党 12%、PPC 1%
- ・ NS 州（8 月 15～22 日）：保守党 36%、自由党 33%、NDP 28%、緑の党 1%、PPC 1%
- ・ NB 州（8 月 15～20 日）：自由党 44%、保守党 24%、NDP 18%、緑の党 10%、PPC 4%

(2) 州政党支持率

- ・ NS 州（Narrative Research 調べ、7 月 27 日～8 月 9 日）：自由党 40%、進歩保守党 31%、NDP 27%、緑の党 2%

6 経済

(1) QC 州

- ・ 8 月 4 日、ケベック党 (PQ) は、7 月にトルドー連邦政権が発表した、予算超過・工期遅延が続く NL 州のマスクラットフォールズ水力発電プロジェクトに対する 52 億加ドルの財政支援に反対。同党は連邦政府に対し「不公正な競争」であるとして、24.2 億加ドルの補償を要求。
- ・ 8 月 10 日、4 月末からストライキ中の豚肉加工大手オリメル (Olymel) の Vallee-Jonction 工場で労使交渉が暗礁に乗り上げる。豚の食肉処理がストップしており、大量の豚が安楽死の危機。ブレ州労働大臣による調停人任命、2 度の原則暫定合意を経て 31 日、組合が合意に賛成しストライキが終結。
- ・ 8 月 10 日、モデルナは、ワクチン製造施設の建設契約を連邦政府と締結。建設地はモントリオールが有力との報道。
- ・ 8 月 11 日、ヴァション (Louis Vachon) カナダ・ナショナルバンク CEO が約 15 年間務めた同職退任を表明。後任はフェレイラ (Laurent Ferreira) 氏。
- ・ 8 月 17 日、モントリオール市は、市内交通機関電化のため 3 年間で 8.85 億加ドルを支出すると発表。2030 年には市内を走る電気自動車の割合を 47%にすることを目指し、600 台の充電ステーションと 60 台の急速充電ステーションを新規設置する。
- ・ 8 月 18 日、HTEC、Air Products、H2V Energies の 3 社が、QC 州における水素流通生産に必要な資金やその他の支援を得るために最近州政府に働きかけているとの報道。
- ・ 8 月 23 日、ドローン製造の General Dynamics 社は、1870 万加ドルを投じてシェルブルックに無人航空システム技術研究所開設を発表。同社にはケベック投資公社 (IQ) が 900 万加ドル融資する。

(2) NL 州

・8月10日、イヌ・ネーションは、7月にトルドー連邦首相とフューリー州首相が発表した、連邦政府によるマスカットフォールズ水力発電プロジェクトに対する52億加ドルの財政支援協定をめぐり、イヌに約束されていた利益が失われるとして連邦・州両政府を提訴。

・8月25日、州政府とハイドロケベック(HQ)は、チャーチルフォールズ水力発電所の契約をめぐり、HQがNL州政府に対して約2500万加ドルの和解金を支払うことで合意。2019年にQC州控訴裁判所が、NL州営公社チャーチルフォールズ・コーポレーションには発電量の一定超過分を売る権利があるとの判決を下し、HQが同発電所で生産される全ての電力を買い取る権利を持つとした2016年の判決を覆したことを受けたもの。1969年に両者が締結した水力発電契約は2041年まで有効。

(3) PEI 州

・8月6日、州環境当局によると、州は2030年までに温室効果ガス排出量を1.2メガトンに削減するという目標達成に近付いているが、2040年までに排出量をゼロにする目標については、これまで以上の努力が必要となる。2005年から2019年にかけて、州は14%の排出量を削減した一方、経済成長率は30%、人口増加率は14%を記録した。

(4) NS 州

・8月9日、ラブラドルのマスカットフォールズ水力発電所からNS州に本格送電(NSブロック)開始。電力はエメラ(Emera、本社ハリファックス)子会社のNSパワー・マリタイムリンク社が建設した陸上と海底ケーブルからなる大規模送電線を介して供給される。NSパワーは、NSブロックにより2022年までに電力の60%を再生可能エネルギーでまかなうことができるようになり、この比率を2030年までに80%まで引き上げる目標は達成可能であるとコメント。

・8月10日、州南西部で行われているロブスター漁をめぐり先住民と非先住民の間の緊張が再び高まったため、連邦漁業省はカナダ全土から職員を集めて同地域に増員。同省は、誤った情報が事態を悪化させているとし、双方に対して冷静な対応を呼びかけ。

・8月12日、州内の林業企業数社は、州北岸ピクトウ・カウンティで休止中の製紙企業ノーザンパルプ(Northern Pulp)工場の再稼働支援のためロビーグループ「Friends of a New Northern Pulp」を立ち上げ。50年にわたる環境汚染のため州政府から排水処理場閉鎖を命じられたノーザンパルプ社は、期限内に代替案が承認されず2020年に閉鎖した。

(5) NB 州

・8月5日、アーヴィング・オイル(Irving Oil、本社セントジョン)は、液化天然ガス受入・再ガス化ターミナルカナポート(Canaport)LNGの25%の所有権をエネルギー・石油化学企業レプソル(Repsol、本社スペイン)に売却。レプソルはカナポートLNGの経営権100%を取得。

[在モントリオール総領事館メールマガジン]

○このメールマガジンは送信専用アドレスから、当館に在留届を提出されている方と、当館メールマガジン読者登録をされている方に向けて送信されています。本メールあてに直接返信なされないようお願いいたします。本メールマガジンに関するご意見・ご要望は以下のメールアドレスあてに送信してください。

emagazine@mt.mofa.go.jp

○メールマガジン読者登録をされている方で、配信中止・配信先変更を希望される方は、「配信中止（又は登録解除）」、「配信先変更」を希望する旨明記の上、emagazine@mt.mofa.go.jp までご連絡ください。登録完了後に確認のメールが届きます。

ただし、在モントリオール総領事館ホームページ内の読者登録ページから登録を行った方は、同ページ内の、「利用者情報の変更／削除」から同様の手続きが行えますので、そちらをご利用ください。

○メールマガジンのバックナンバーは、以下の URL をクリックすると閲覧いただけます。

https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itpr_ja/mailmag.html

○参考ホームページ

首相官邸ホームページ（www.kantei.go.jp）

外務省ホームページ（www.mofa.go.jp/mofaj/）

在カナダ日本国大使館ホームページ（www.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館ホームページ（https://www.montreal.ca.emb-japan.go.jp/itprtop_ja/index.html）

当館 Facebook（www.facebook.com/JapanConsMontreal）

当館 Twitter：@JaponMontreal <https://twitter.com/JaponMontreal>

○発行：在モントリオール日本国総領事館

Consulate General of Japan in Montreal

1 Place Ville Marie, Suite 3333, Montreal, Quebec, H3B 3N2, Canada

○本メールマガジンからの転載を希望する場合は総領事館メールマガジン担当

（emagazine@mt.mofa.go.jp）までご相談ください。

■-----■